



上／深澤村長の遺体を迎える沿道の人びと
中／馬そりで談笑しながら故郷・沢内に帰ってくる晟雄(長谷川初範)とミキ(とよた真帆)夫妻
下／赤ちゃんが亡くなって悲しみにくれる母親
(「いのちの山河」ホームページより)

「いのちの山河」 町民参加のロケ

2月15日深澤晟雄の高校の授業シーンでクランクインした劇映画「いのちの山河」は、子どもたちを含む町民のエキストラ参加を得て撮影ロケが急ピッチで進められています。19日には川舟小学校児童など70人が参加して昭和38年の冬季交通確保の開通式を再現しました。また、21日には沢内村に帰ってきた深澤村長の遺体を乗せた車を、村民が総出で出迎えるシーンの撮影が行われました。これには首都圏など県内外の応援を含めた300人以上のエキストラ参加者が、吹雪の中で過酷な条件の撮影を乗りきりました。撮影は5月まで北上市など町内外で行い、6月完成、7月の上映をめざしています。

製作協力券にも 参加しましょう

「劇映画」づくりには莫大な製作費が必要で、総予算は2億円です。この資金を「製作協力券」(1枚1000円)の普及・販売でまかないたい計画で、現在製作協力者の募集を行っています。映画完成の暁には生命尊重の風土と文化が薫る西和賀町が全国各地に紹介されるわけで、町にとっても大きな宣伝効果をもたらし、町の文化的財産としても価値あるものになります。町民総参加の映画づくりとなるよう製作協力券の普及・販売にも協力しましょう。製作協力申込書は、深澤晟雄資料館にもありますのでご連絡ください。

「生命尊重こそ政治の基本」



生命行政の拠点・保健医療福祉の中核を担った旧沢内病院。いつの時代でも「命のとりで」を守り抜く政治の責任を放棄してはならない。

深澤語録を訪ねて ⑫

昭和35年12月1日から全国に先がけて65歳以上の医療費無料化計画に、岩手県は「国民健康保険法に違反する。村の条例も5割給付になっている。明らかに法違反だ」という見解を示した。これに対し深澤村長は断固として答えた。

国保法に違反するかもしれないが、憲法違反にはな

りませんよ。これをやらなければ、憲法が保障している健康で文化的な最低の生活すら得られない国民がたくさんいるんですからね。訴えるならそれも結構、最高裁まで争いますよ。国民の生命を守るのは国の責任ですよ。しかし、国がやらないのなら私がやりましょう。国はあとからついてき

ますよ。翌36年4月の村長選挙でも公約は「生命尊重」だった。生命尊重こそが政治の基本でなければならぬ。生まれた赤ん坊がコロコロ死んで行くような野蛮な条件、年老いた人々が農夫症に苦しみながら、枯れ木が朽ちるように死んで行く。このような悲惨な条件を克服し

沢内村地域包括医療実施計画の目的と目標

(目的)

- 1 幸福追求の原動力である健康を人生のあらゆる時点で理想的に養護する。
- 2 生存地域社会環境(自然的環境・社会的環境)の健全性の開発向上を期する。

(目標)

- 1 すこやかに生まれる(健全な赤ちゃんを生み育てる)
- 2 すこやかに育つ(心身ともに強靱で聡明な人づくり)
- 3 すこやかに老いる
(健康体老人づくり・不老長寿・生存限界年齢・自然死への接近)

これらの目標を実現するためには、

誰でも(どんな貧乏人でも)

いつでも(24時間365日生涯にわたって)

学術の進歩に即応する最新・最高の包括医療サービスと、文化的な健康生活の保障を享受することが必要である。

(改革目標)

- 1 国保沢内病院の体質改善
- 2 沢内村自治体の体質改善
- 3 村民の自己管理能力の向上

東京から深澤晟雄資料館を訪ねてこの計画を見た60代の女性は、「この3つの目標は今の東京にこそ必要だ。半世紀前の計画なのに、今でも共鳴できる全国民共通の願いだ」と感動的に語っていました。